

第2章 各教科

第1節 国語

1 これまでの課題（小中一貫教育要領に基づく実践から見られた課題）

- 全国学力・学習状況調査の結果によると、「国語の勉強は好き」と回答している児童・生徒の割合は、例年、全国や都の回答率を上回っている。一方で、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。」と回答している生徒の割合は全国や都を下回る。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の課題
 - ・ 漢字については、音読みは身に付いているが、訓読みは定着していない傾向がある。また、第6学年までに学習した漢字を日常生活で適切に使いこなすことに課題が見られる。
 - ・ 書写については行書の特徴を理解したり、楷書との違いを理解したりすることに課題がある。
- 「話すこと・聞くこと」の課題
 - ・ 相手の反応を見ながら話すことや、相手に応じた分かりやすい語句を選択して話すことに課題がある。
- 「書くこと」の課題
 - ・ 各種学力調査の結果によると、全国や都に比べ、「必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く」問題の無解答率が高く、学年が上がるにつれ、その傾向が顕著に見られる。また例年、「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」問題の正答率が低く、根拠を明確にして感じたことや考えたことを具体的に記述することに課題が見られる。
- 「読むこと」の課題
 - ・ 説明的な文章においては、目的に応じて資料を選び、比較して読むこと、必要な情報を正確に取り出すことに課題がある。また、文学的な文章においては、場面の展開や登場人物などの描写に注意しながら読むことに課題が見られる。
 - ・ 読書については、読書指導における学習過程の工夫や、学校図書館や地域図書館を利用し、様々な知識や情報を得られるような機会の充実が必要である。

2 課題を克服するための視点

〔知識及び技能の育成〕

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」について
 - ・ 漢字指導の改善・充実
 - 漢字に興味をもって主体的に学び、日常生活で適切に使うことができるよう、漢字学

習の工夫をすることが重要である。また将来の社会生活に生かせるよう、国語科はもとより他教科の学習との関連を図るなど、学校生活の様々な機会を捉えて指導することが大切である。

・ 語彙を豊かにする指導の充実

辞書を活用して語句の意味を正しく理解することはもとより、文脈の中で用いられている語句の意味を的確につかむ力を育てることが大切である。また、話や文章の中で使う語彙の量を増やすとともに、豊かな語感を育てるなど、学年の発達段階に応じて量と質の両面から学習を充実させることが必要である。

○ 「情報の扱い方に関する事項」について

・ 複数の情報の比較や関連付けを意識した指導の工夫

本や文章、図表やグラフなどから必要な情報を関連付けて読み、考えを広め、深める学習を通して、根拠を明確にして伝える力を高めることが求められる。

○ 「我が国の言語文化に関する事項」について

・ 毛筆の指導の工夫

毛筆の指導を通して、楷書と行書の基礎的な書き方を理解させ、文字文化の豊かさに触れさせることが大切である。

・ 読書指導の改善・充実

生涯にわたる読書生活につながるよう、計画的、系統的に指導することが大切である。その際、本を読むときには、知らない言葉を辞書で調べたり、百科事典や図鑑を活用したりして内容理解を深めるとともに、読書の幅を広げるようにする。

・ 学校図書館や地域図書館の活用

学校図書館や地域図書館を利用する機会を計画的に設定し、効果的な図書館の活用の仕方を学ぶことで、主体的に読書に親しんだり、様々な知識や情報を得たりできるようにする。

〔思考力・判断力・表現力等の育成〕

○ 「話すこと・聞くこと」について

・ 相手の立場や場、置かれた状況に応じた話し方の工夫

自分の考えを的確に伝えるためには、話の内容や構成を意識することはもとより、相手の立場や状況等を考え、話す速度や間、声量等を工夫し、適切な言葉遣いで話すことが必要である。またその前提として、相手への気遣いが大切であることに気付かせる。

○ 「書くこと」について

・ 論理的な文章を書く力の育成を目指した授業の展開

目的や意図に応じた材料を収集・整理し、その中から根拠となる内容を適切に選んで、それを踏まえて自分の考えを具体的に書く学習を充実させることが重要である。そのため、複数の情報を関連付けて読み取り、共通点と相違点を見出し、自分の考えの根拠となる部分を見付ける力を付けることが大切である。

○ 「読むこと」について

・ 読む目的を明確にした授業の展開

筆者の主張を知るために読む、考えを広げたり深めたりするために読む、知的欲求を

満たすために読むなどといった、読む目的を明確にした授業を展開することが重要である。

- ・ 登場人物の言動や描写に着目した授業の展開
登場人物の言動を叙述に即して捉えたり、描写に込められた意味を考えたりして、自分の経験と結び付けながら、読みを深める授業をすることが必要である。

3 具体的な手だて

〔知識及び技能〕

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の指導に当たって
 - ・ 漢字の指導においては、知っている漢字をできるだけ使おうとする意欲や習慣を身に付けさせる。そのためには、発達段階を考慮しながら、国語辞典や漢和辞典の活用を図り、自らすすんで漢字の意味や用例、部首を調べることができるような学習活動を取り入れる。
また、漢字を確実に定着させるためには学び直しの時間を確保することが必要である。例えば、当該学年で学習する漢字指導は2学期に全て終了し、3学期は学び直しの時間となるように年間計画を立てることも考えられる。学年が上がるにつれ個人差が大きくなることが予想されるので、一人一人に応じた指導を工夫するとともに、漢字検定を活用するなど個々の目標を設定し、児童・生徒が意欲的に取り組めるようにする。
 - ・ 語彙を増やすためには、新しく覚えた語句を別の語句に言い換えたり、類義語・対義語を調べて例文を作らせたりするなど、多角的な視点で学習に取り組ませる。また、本や新聞、広告など、様々なジャンルの文章を読むことを通して、新たな言葉に触れる機会を増やし、楽しみながら語彙を増やしていくとともに、言葉に対する感性を磨く場を意図的に設ける。
- 「情報の扱い方に関する事項」の指導に当たって
 - ・ これからの情報社会を生き抜くために身に付けておかなければならない事項である。情報の信頼性をどのように確かめるか、何を根拠に正しい情報と判断するかなど、具体的な事例を用いて話し合う学習活動を取り入れる。情報モラルの視点から、社会科や市民科など他教科と関連付けた指導を行う。
 - ・ ポスターやパンフレット、グラフや図表など、それぞれの資料の特徴を理解した上で、その中に示された情報や効果を読み取ったり、複数の情報を関連付けたりして、必要な情報を取捨選択する学習活動を取り入れる。
- 「我が国の言語文化に関する事項」について
 - ・ 書写の指導においては、字形や文字の大きさ、配列などの評価の観点を示した上で、互いの作品を鑑賞し合う学習活動を設ける。また、教科書で学んだ俳句や短歌、漢詩、小倉百人一首などを実際に毛筆で書くことを通して、楷書と行書の特色について実感させる。
 - ・ 学校図書館や地域図書館を主体的に利用できるよう、図書館司書等との連携を図り、本の探し方や配架のシステム、貸出の方法などについて指導する。

〔思考力・表現力・判断力等〕

- 「話すこと・聞くこと」の指導に当たって
 - ・ 相手の反応を見ながら話したり，分かりやすい言葉を選択して話したりするなど，相手の立場や場の状況を意識して，適切な言葉遣いで話す活動を取り入れる。また，話し手が伝えなかった内容と聞き手が受け取った内容とを比較し，相手に的確に伝えるための話し方や話の構成について考える言語活動を取り入れる。
- 「書くこと」の指導に当たって
 - ・ 学習活動の導入に際し，この單元では，「書くこと」の一連の学習過程の中のどの指導事項に重点を置いているかを明確に示すようにする。また，実際に文章を書く活動では，「書く題材を決めることができたか。」，「集めた材料を整理できているか。」，「文章の構成や展開を考えられたか。」など，個人カルテやワークシートを用いて，適時，児童・生徒一人一人の学習状況を見取り，個に応じた指導を適切に行う。
 - ・ 伝えたい事柄の中心は何か，その根拠となる事実は何かをカードやワークシートにまとめさせ，その上で，適切な接続語の選択や段落構成を考えさせるなど，論理的な文章を書くための準備段階の視点をもたせる。
- 「読むこと」の指導に当たって
 - ・ 読む目的を明確にもたせることで，主体的に学習に取り組めるよう，單元全体の計画を立てる。その際，單元全体を通して身に付けさせたい力を明確にし，単元のねらいに沿った言語活動を設定する。また，一単位時間の中で「なぜ」「どうして」などの問いをもたせる工夫を行うことで課題解決型の授業を展開する。
 - ・ 「読むこと」の指導を通して，児童・生徒の読書意欲を高め，日常生活における読書活動につなげるように留意する。また，読書活動を動機付けたり，読書の幅を広げたりする学習を年間指導計画の中に位置付ける。

第1 目標

言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに，言語感覚を豊かにし，我が国の言語文化に関わり，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

第2 各学年の目標及び内容

1 目標

		第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
目 標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	「知識及び技能」	(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。		
	「思考力、判断力、表現力等」	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。		
	「学びに向かう力、人間性等」	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		
各学年の目標	(1) 「知識及び技能」	(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
	(2) 「思考力、判断力、表現力等」	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
	(3) 「学びに向かう力、人間性等」	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

第7学年	第8学年	第9学年
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
「知識及び技能」	(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	
「思考力、判断力、表現力等」	(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	
「学びに向かう力、人間性等」	(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	
(1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	(1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	(1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにするようにする。	(2) 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
	(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
言葉の働き	ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。
話し言葉と書き言葉	イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。	イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ウ 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。	イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。
漢字	エ 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	エ 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。
語彙	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。	オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。	オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。
文や文章	力 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。	力 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	力 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。
言葉遣い	キ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。	キ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。	キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。
表現の技法			ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
音読、朗読	ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	ケ 文章を音読したり朗読したりすること。

第7学年	第8学年	第9学年
(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	ア 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くこと。	
ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。	イ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。	
イ 学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	ウ 第7学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	ア 第8学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。
ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	イ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
エ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。	オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。	ウ 話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。
	カ 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うこと。	エ 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うこと。
オ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。		

(2) 情報の扱い方に関する事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
	(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
情報と情報との関係	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理		イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

(3) 我が国の言語文化に関する事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
	(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
伝統的な言語文化	ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 イ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。	ア 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。	ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
言葉の由来や変化		ウ 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。	ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。
書写	ウ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。 (イ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 (ウ) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。	エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。 (イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 (ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。	エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさと配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 (イ) 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。 (ウ) 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。
毛筆を使用する書写の指導単位時間	-	(第3学年) 30 (第4学年) 30	(第5学年) 30 (第6学年) 30
読書	エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。	オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。	オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。

第7学年	第8学年	第9学年
(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
ア 原因と結果, 意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。	ア 意見と根拠, 具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。	ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。
イ 比較や分類, 関係付けなどの情報の整理の仕方, 引用の仕方や出典の示し方について理解を深め, それらを使うこと。	イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。	イ 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。

第7学年	第8学年	第9学年
(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り, 古文や漢文を音読し, 古典特有のリズムを通して, 古典の世界に親しむこと。 イ 古典には様々な種類の作品があることを知ること。	ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして, 古典の世界に親しむこと。 イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して, 古典に表れたものの見方や考え方を知ること。	ア 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して, その世界に親しむこと。 イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。
ウ 共通語と方言の果たす役割について理解すること。		ウ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解すること。
エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 字形を整え, 文字の大きさ, 配列などについて理解して, 楷書で書くこと。 (イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して, 身近な文字を行書で書くこと。	エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して, 読みやすく速く書くこと。 (イ) 目的や必要に応じて, 楷書又は行書を選んで書くこと。	エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ, 効果的に文字を書くこと。
20	20	10
オ 読書が, 知識や情報を得たり, 自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。	オ 本や文章などには, 様々な立場や考え方が書かれていることを知り, 自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。	オ 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解すること。

〔思考力, 判断力, 表現力等〕

A 話すこと・聞くこと

		第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
		(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
話すこと	話題の設定	ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め, 伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア 目的を意識して, 日常生活の中から話題を決め, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア 目的や意図に応じて, 日常生活の中から話題を決め, 集めた材料を分類したり関係付けたりして, 伝え合う内容を検討すること。
	情報の収集			
	内容の検討			
	構成の検討	イ 相手に伝わるように, 行動したことや経験したことに基づいて, 話す事柄の順序を考えること。	イ 相手に伝わるように, 理由や事例などを挙げながら, 話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。	イ 話の内容が明確になるように, 事実と感想, 意見とを区別するなど, 話の構成を考えること。
	考えの形成			
	表現 共有	ウ 伝えたい事柄や相手に応じて, 声の大きさや速さなどを工夫すること。	ウ 話の中心や話す場面を意識して, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などを工夫すること。	ウ 資料を活用するなどして, 自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
聞くこと	話題の設定	【再掲】 ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め, 伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	【再掲】 ア 目的を意識して, 日常生活の中から話題を決め, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	【再掲】 ア 目的や意図に応じて, 日常生活の中から話題を決め, 集めた材料を分類したり関係付けたりして, 伝え合う内容を検討すること。
	情報の収集			
	内容の検討	エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き, 話の内容を捉えて感想をもつこと。	エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き, 話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え, 自分の考えをもつこと。	エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて, 話の内容を捉え, 話し手の考えと比較しながら, 自分の考えをまとめること。
	構成の検討			
	考えの形成			
	表現			
話し合うこと	話題の設定	【再掲】 ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め, 伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	【再掲】 ア 目的を意識して, 日常生活の中から話題を決め, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	【再掲】 ア 目的や意図に応じて, 日常生活の中から話題を決め, 集めた材料を分類したり関係付けたりして, 伝え合う内容を検討すること。
	情報の収集			
	内容の検討			
	話合いの進め方の検討	オ 互いの話に関心をもち, 相手の発言を受けて話をつなぐこと。	オ 目的や進め方を確認し, 司会などの役割を果たしながら話し合い, 互いの意見の共通点や相違点に着目して, 考えをまとめること。	オ 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い, 考えを広げたりまとめたりすること。
	考えの形成			
	共有			
言語活動例	(2) (1) に示す事項については, 例えば, 次のような言語活動を通して指導するものとする。			
	ア 紹介や説明, 報告など伝えたいことを話したり, それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。	ア 説明や報告など調べたことを話したり, それらを聞いたりする活動。 イ 質問するなどして情報を集めたり, それらを発表したりする活動。 ウ 互いの考えを伝えるなどして, グループや学級全体で話し合う活動。	ア 意見や提案など自分の考えを話したり, それらを聞いたりする活動。 イ インタビューなどをして必要な情報を集めたり, それらを発表したりする活動。 ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。	
指導単位時間	(第1学年) 35 (第2学年) 35	(第3学年) 30 (第4学年) 30	(第5学年) 25 (第6学年) 25	

第7学年	第8学年	第9学年
(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
イ 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。	イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。	イ 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。
ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。	ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。	ウ 場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。
【再掲】 ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。	エ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。	エ 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりすること。
【再掲】 ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。	オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。	オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。
(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。		
ア 紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。	ア 説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする活動。	ア 提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動。
イ 互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動。	イ それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする活動。	イ 互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動。
15～25	15～25	10～20

B 書くこと

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
	(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
題材の設定 情報の収集 内容の検討	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、文章の構成を考えること。	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。
構成の検討	イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。
考えの形成	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
記述			エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
推敲	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。
共有	オ 文章に対する感想を伝え合い自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
言語活動例	(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。		
	ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 イ 日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 ウ 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 イ 行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。 ウ 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 イ 短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ウ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。
指導 単位時間	(第1学年) 100 (第2学年) 100	(第3学年) 85 (第4学年) 85	(第5学年) 55 (第6学年) 55

第7学年	第8学年	第9学年
(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。
イ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。	イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。	イ 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。
ウ 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。
エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること	エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。	エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。
オ 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。	オ 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。	オ 論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。
(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。		
ア 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。	ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。
イ 行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く活動。	イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。	イ 情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動。
ウ 詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く活動。	ウ 短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動。	
30～40	30～40	20～30

C 読むこと

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
	(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
構造と内容の把握	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
精査・解釈	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
考えの形成	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
共有	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。
言語活動例	(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。		
	ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。	ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

第7学年	第8学年	第9学年
(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
<p>ア 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。</p> <p>イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。</p>	<p>ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。</p>	<p>ア 文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。</p>
<p>ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。</p> <p>エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。</p>	<p>イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。</p> <p>ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。</p> <p>エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。</p>	<p>イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。</p> <p>ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。</p>
<p>オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。</p>	<p>オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。</p>	<p>エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。</p>
(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。		
<p>ア 説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動。</p> <p>イ 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。</p> <p>ウ 学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動。</p>	<p>ア 報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。</p> <p>イ 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。</p> <p>ウ 本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする活動。</p>	<p>ア 論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動。</p> <p>イ 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。</p> <p>ウ 実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動。</p>

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

〔第1学年から第6学年まで〕

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
- (2) 第2の各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で程度を高めて取り上げたりするなどして、弾力的に指導すること。
- (3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。
- (4) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、意図的、計画的に指導する機会が得られるように、第1学年及び第2学年では年間35単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間30単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間25単位時間程度を配当すること。その際、音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。
- (5) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動をなるべく多くすること。
- (6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
- (7) 低学年においては、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校及び義務教育学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
- (8) 言語能力の向上を図る観点から、英語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。
- (9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (10) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、市民科などとの関連を考慮しながら、第3章市民科の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導を

すること。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1)〔知識及び技能〕に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。
 - ア 日常の言語活動を振り返ることなどを通して、児童が、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識できるよう指導を工夫すること。
 - イ 理解したり表現したりするために必要な文字や語句については、辞書や事典を利用して調べる活動を取り入れるなど、調べる習慣が身に付くようにすること。
 - ウ 第3学年におけるローマ字の指導に当たっては、コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得し、児童が情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮することとの関連が図られるようにすること。
 - エ 漢字の指導については、第5の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。
 - (ア) 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に配慮しつつ、必要に応じて、当該学年以前の学年又は当該学年以降の学年において指導することもできること。
 - (イ) 当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字については、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示することができること。
 - (ウ) 他教科等の学習において必要となる漢字については、当該教科等と関連付けて指導するなど、その確実な定着が図られるよう指導を工夫すること。
 - (エ) 漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。
 - オ 各学年の(3)のア及びイに関する指導については、各学年で行い、古典に親しめるよう配慮すること。
 - カ 書写の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。
 - (ア) 文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。
 - (イ) 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。
 - (ウ) 毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行い、各学年年間30単位時間程度を配当するとともに、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。
 - (エ) 第1学年及び第2学年の(3)のウの(イ)の指導については、適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫すること。
- (2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
- (3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りが無いよう配慮して選定すること。

3 教材については、次の事項に留意するものとする。

- (1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適

切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第5の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

(2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。

ア 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。

イ 伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。

ウ 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。

エ 科学的、論理的に物事を捉え考察し、視野を広げるのに役立つこと。

オ 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つこと。

カ 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。

キ 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。

ク 我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。

ケ 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家、社会の発展を願う態度を育てるのに役立つこと。

コ 世界の風土や文化などを理解し、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

(3) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の教材については、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章形態を調和的に取り扱うこと。また、説明的な文章については、適宜、図表や写真などを含むものを取り上げること。

〔第7学年から第9学年まで〕

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

(2) 第2の各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年の前後の学年で取り上げることもできること。

(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。

(4) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、第7学年及び第8学年では年間15～25単位時間程度、第9学年では年間10～20単位時間程度を配当すること。その際、音声言語のための教材を積極的に活用するなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。

(5) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については、第7学年及び第8学年では年間30～40単位時間程度、第9学年では年間20～30単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動を重視すること。

(6) 第2の第7学年及び第9学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ、第8学年の内容の〔知

- 識及び技能]の(3)のエ,各学年の内容の〔思考力,判断力,表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については,様々な文章を読んで,自分の表現に役立てられるようにするとともに,他教科等における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
- (7) 言語能力の向上を図る観点から,英語科など他教科等との関連を積極的に図り,指導の効果を高めるようにすること。
- (8) 障害のある生徒などについては,学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的,組織的に行うこと。
- (9) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき,市民科などとの関連を考慮しながら,第3章市民科の第2に示す内容について,国語科の特質に応じて適切な指導をすること。

2 第2の内容の取扱いについては,次の事項に配慮するものとする。

- (1) [知識及び技能]に示す事項については,次のとおり取り扱うこと。
- ア 日常の言語活動を振り返ることなどを通して,生徒が,実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識できるよう指導を工夫すること。
- イ 漢字の指導については,第2の内容に定めるほか,次のとおり扱うこと。
- (ア) 他教科等の学習において必要となる漢字については,当該教科等と関連付けて指導するなど,その確実な定着が図られるよう工夫すること。
- ウ 書写の指導については,第2の内容に定めるほか,次のとおり取り扱うこと。
- (ア) 文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに,書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。
- (イ) 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。
- (ウ) 毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い,硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。
- (エ) 書写の指導に配当する授業時数は,第7学年及び第8学年では年間20単位時間程度,第9学年では年間10単位時間程度とすること。

3 教材については,次の事項に留意するものとする。

- (1) 教材は,第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度を育成することをねらいとし,生徒の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また,第2の各学年の内容の〔思考力,判断力,表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」,「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
- (2) 教材は,次のような観点に配慮して取り上げること。
- ア 国語に対する認識を深め,国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。
- イ 伝え合う力,思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにするのに役立つこと。
- ウ 公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つこと。
- エ 科学的,論理的に物事を捉え考察し,視野を広げるのに役立つこと。
- オ 人生について考えを深め,豊かな人間性を養い,たくましく生きる意志を育てるのに役立つこと。
- カ 人間,社会,自然などについての考えを深めるのに役立つこと。

- キ 我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。
- ク 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと。
- (3) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の教材については、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章形態を調和的に取り扱うこと。また、説明的な文章については、適宜、図表や写真などを含むものを取り上げること。
- (4) 我が国の言語文化に親しむことができるよう、近代以降の代表的な作家の作品を、いずれかの学年で取り上げること。
- (5) 古典に関する教材については、古典の原文に加え、古典の現代語訳、古典について解説した文章などを取り上げること。

<別 表>

学年別漢字配当表 (第1～6学年 1026字)

第一学年	一 校 青 入	右 左 夕 年	雨 三 石 白	円 山 赤 八	王 子 千 百	音 四 川 文	下 糸 先 木	火 字 早 本	花 耳 草 名	貝 七 足 目	学 車 村 立	気 手 大 力	九 十 男 林	休 出 竹 六	玉 女 中 品	金 小 虫 町	空 上 天	月 森 田	犬 人 土	見 水 二	五 正 日	口 生	(81字)	
第二学年	引 工 思 西 朝 麦 用	羽 汽 紙 声 直 半 曜	雲 記 広 寺 星 通 番 来	園 帰 交 自 晴 弟 父 里	遠 弓 光 時 切 店 風 理	何 牛 考 室 雪 点 分 話	科 魚 行 社 船 電 聞	夏 京 高 弱 線 刀 米	家 強 黄 首 前 冬 步	歌 教 合 秋 組 当 母	画 近 谷 週 走 東 方	回 兄 国 春 多 答 北	会 形 黒 書 太 頭 每	海 計 今 少 体 同 妹	絵 元 才 場 台 道 万	外 言 細 色 地 読 明	角 原 作 食 池 内 鳴	楽 戸 算 心 知 南 肉 門	活 古 止 新 茶 肉 夜	間 午 市 親 昼 馬 野	丸 後 矢 凶 長 売 野	岩 語 姉 数 鳥 買 友	(160字)	
第三学年	悪 寒 君 詩 暑 息 笛 板 問 和	安 感 係 次 助 速 鉄 皮 役	暗 漢 軽 事 昭 族 転 悲 藥	医 館 血 持 消 他 都 美 鼻 油	委 岸 決 研 式 商 打 度 鼻 油	意 起 研 実 章 对 投 筆 有	育 期 県 写 勝 待 豆 氷 遊	員 客 庫 者 乘 代 島 表 予	院 究 湖 主 植 第 湯 秒 羊	飲 急 向 守 申 題 登 病 洋	運 級 幸 取 身 炭 等 負 葉	泳 宮 港 酒 神 短 動 部 陽	駅 球 号 受 真 談 童 服 福 落	央 去 根 州 深 着 注 波 物 流	横 橋 祭 拾 進 注 波 物 流	屋 業 皿 終 世 柱 配 平 旅	温 曲 仕 習 整 丁 倍 返 両	化 局 死 集 昔 帳 箱 勉 緑	荷 銀 使 住 全 調 焂 放 礼	界 区 始 重 相 追 焂 味 列	開 苦 指 宿 送 定 反 命 練	階 具 齒 所 想 庭 坂 面 路	(199字)	

和 (「品」は第一学年に移行)

第四学年	愛街共候滋清單梅望連 案各協康辭靜置博牧老 以覚鏡佐鹿席仲阪末労 衣渴競差失積沖飯満録 位完極菜借折兆飛未 茨官熊最種節低必民 印管訓埼周説底票無 英関軍材祝浅的標約 栄観郡崎順戦典不勇 媛願群昨初選伝夫要 塩岐径札松然徒付養 岡希景刷笑争努府浴 億季芸察唱倉灯阜利 加旗欠参焼巢働富陸 果器結産照束特副良 貨機建散城側徳兵料 課議健残縄続柄別量 芽求験氏臣卒奈辺輪 賀泣固司信孫梨変類 改給功試井帯熱便令 械拳好児成隊念包冷 害漁香治省達敗法例	(202字)
第五学年	圧確句混示制損破報 困額型查似性貸犯豊 移刊経再識政態判防 因幹潔災質勢団版貿 永慣件妻舍精断比暴 営眼険採謝製築肥脈 衛紀検際授税貯非務 易基限在修責張費夢 益寄現財述績停備迷 液規減罪術接提評綿 演喜故殺準設程貧輸 応技個雑序絶適布余 往義護酸招祖統婦容 桜逆効賛証素堂武略 可久厚士象総銅復留 仮旧耕支賞造導複領 価救航史条像得仏歴 河居鉞志状増毒粉 過許構枝常則独編 快境興師情測任弁 解均講資織属燃保 格禁告飼職率能墓	(193字)
第六学年	胃揮呼視承窓腸否訳 異貴誤詞将創潮批郵 遺疑后誌傷装賃秘優 域吸孝磁障層痛俵預 宇供皇射蒸操敵腹幼 映胸紅捨針蔵展奮欲 延郷降尺仁臍討並翌 沿勤鋼若垂存党陸乱 恩筋刻樹推尊糖閉卵 我系穀収寸退届片覧 灰敬骨宗盛宅難補裏 拈警困就聖担乳暮律 革劇砂衆誠探認宝臨 閣激座従舌誕納訪朗 割穴濟縦宣段脳亡論 株券裁縮專暖派忘 干絹策熟泉值拝棒 卷権冊純洗宙背枚 看憲蚕処染忠肺幕 簡源至署銭著俳密 危巖私諸善庁班盟 机己姿除奏頂晩模	(191字)

※第7学年～第9学年については、上記に加え、その他の常用漢字を学習する。